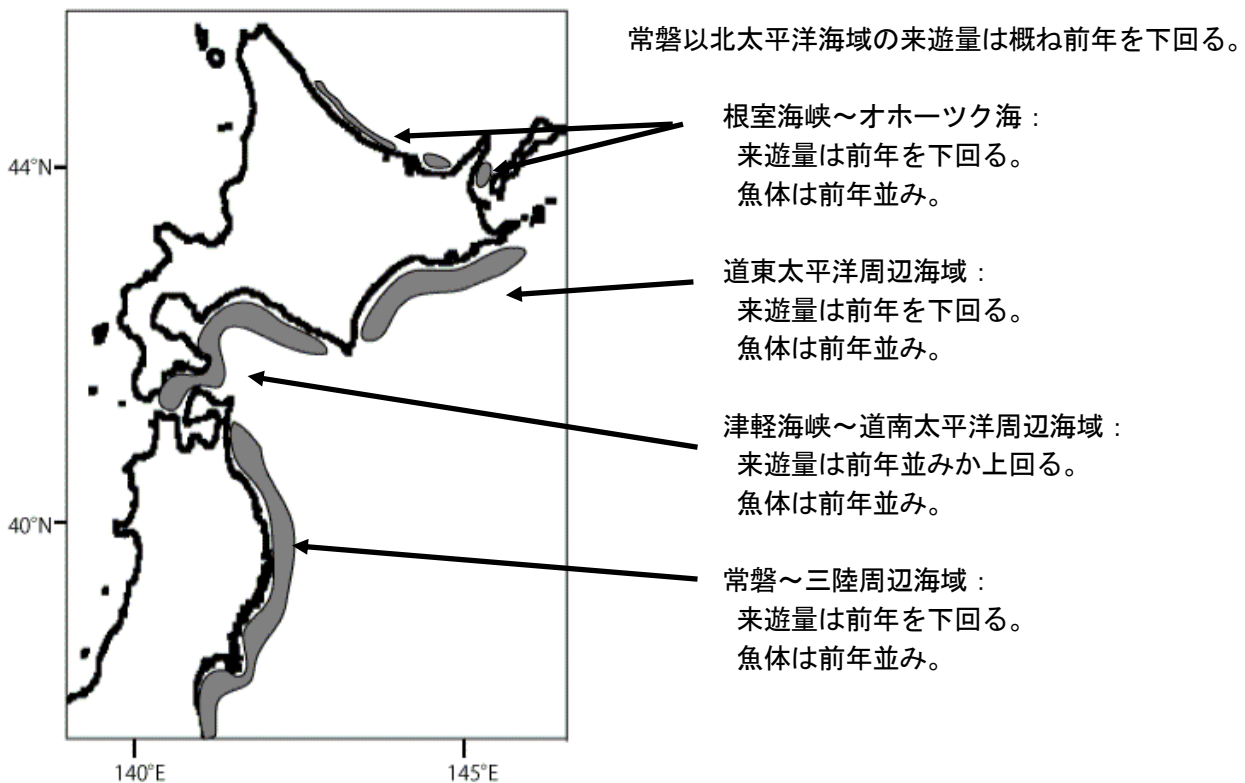


## 平成24年度 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(平成24年10月～12月)のポイント



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、長谷

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

担当：野上、秋山

電話：011-822-2131、ファックス：011-822-3342

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>

# 平成24年度 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

## 今後の見通し（2012年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋周辺海域、根室海峡～オホーツク海、常磐～三陸周辺海域、  
津軽海峡～道南太平洋周辺海域。

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網。

対象魚群：主に冬季発生系群（2012年級群）。

### 1. 道東太平洋周辺海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量 : 前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場 : 10月まで漁場が形成される。
- (3) 魚体の大きさ : 前年並み。

### 2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

- (1) 来遊量 : 前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場 : 10月～11月が漁期の中心となる。
- (3) 魚体の大きさ : 前年並み。

### 3. 常磐～三陸周辺海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量 : 前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場 : 予報期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体の大きさ : 前年並み。

### 4. 津軽海峡～道南太平洋周辺海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量 : 前年並みか上回る。
- (2) 漁期・漁場 : 予報期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体の大きさ : 前年並み。

## 漁況の経過（2012年7月～8月）および今後の見通しについての説明

### （1）資源状態

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは、冬季発生系群が主体であり、これに秋季発生系群の一部が含まれる。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970年～1980年代は低位水準で推移した。1989年から増加に転じ、それ以降では1996年（年間漁獲量：27万6,000トン）が最も資源水準の高い年となった（図1）。1990年以降は高位から中位水準で推移しており、直近3年の漁獲量は横ばいで、12万6,000トン～15万7,000トンの範囲であった。

主漁場は常磐以北太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域および根室海峡～オホーツク海域に区別される。2011年10月～12月の常磐以北太平洋海域での漁獲量（生鮮）は8万5,000トンであり、常磐～三陸周辺海域では2万4,900トン、津軽海峡～道南太平洋周辺海域では1万2,400トン、道東太平洋周辺海域では4,300トン、根室海峡～オホーツク海では4万3,400トンであった（図2）。なお、近年の漁獲量のピークは10月～11月である。

### （2）関連調査結果

8月上旬～9月上旬に実施された第2次漁場一斉調査（北海道立総合研究機構函館水産試験場、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター；以下、一斉調査）および関連いか釣り調査（北海道立総合研究機構釧路水産試験場）の結果（図3）、道東太平洋周辺海域（42°N以北、143°E以东）の平均CPUE（いか釣り機1台1時間当り漁獲尾数）は7.64尾であり、前年（11.99尾）を下回った。三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）は0.19尾であり、前年（19.49尾）を下回った。津軽海峡～道南太平洋周辺海域（41°N以北、143°E以西）は2.97尾であり、前年（1.50尾）を上回った。全水域では2.99尾となり前年（9.96尾）を下回った。

表層トロールネットを用いて実施した新規加入量調査（中央水産研究所、北海道区水産研究所、5月～6月）の結果、本予報期間に加入すると予想される外套背長5cm未満の個体の平均漁獲尾数（30分曳網当たり漁獲尾数）は、前年比91%で、近年5年平均比40%の低い水準にあった。

### （3）2012年の各海域の漁況経過（7月～8月、一部集計中）

2012年7月～8月における太平洋沿岸の主要港での水揚げ量（生鮮：各道県の速報値等の集計による）は2万3,100トンで、前年同期（2万9,100トン）を下回った。道東太平洋周辺海域は3,100トンで、前年同期（7,600トン）を下回り、常磐～三陸海域周辺海域での水揚げ量は1万4,800トンで、前年同期（1万4,000トン）並みで、津軽海峡～道南太平洋周辺海域の水揚げ量は5,200トンで、前年同期（7,500トン）を下回った。各地域の詳細な漁況経過は表1に示す。

### （4）魚体の大きさ

8月上旬～9月上旬に実施された一斉調査で漁獲されたスルメイカの全調査点での外套背長組成は、モードが20cmにある単峰型であり、前年（18cm）より2cm大きかった。海域別では、道東太平洋周辺海域がモード20cm（前年：21cm）、三陸周辺海域がモード18cmと20cm（前年：18cm）、津軽海峡～道南太平洋周辺海域がモード22cm（前年：23cm）であった（図4）。

7月～8月に北海道～青森県で水揚げされたスルメイカの外套背長モードは、概ね前年並みであった（表1）。

#### (5) 今後の見通しの説明

・本年8月までの各地の漁獲状況から判断すると、9月上旬現在の常磐以北太平洋海域における漁獲対象資源の水準は、概ね前年を下回った。一斉調査での平均 CPUE は津軽海峡～道南太平洋周辺海域では前年を上回ったが、その他の海域では前年を下回った。また、5月～6月に実施した新規加入量調査において本予報期間に加入すると予測される外套背長5cm 未満の個体の CPUE は前年並みだが、近年平均より低い水準であった。以上のことから、本予報期間である10月～12月における常磐以北太平洋海域への来遊量は、概ね前年を下回ると推測される。なお、本予報期間に常磐以北太平洋海域から日本海へ回遊するスルメイカの子魚の来遊量も前年を下回り、津軽海峡経由で日本海へ来遊する時期は、海面水温が前年より高めに推移していることから、前年より遅いと推測される。

・道東太平洋周辺海域での漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられている。道東太平洋周辺海域における一斉調査の CPUE は前年を下回った（前述）。道東主要港へ水揚げする小型いか釣り船の7月～8月の水揚げ量は前年を下回り、CPUE は前年並みであった（表1）。新規加入量調査結果は前年並みだが近年平均を下回った。以上のことから、本予報期間における道東太平洋周辺海域への来遊量は前年を下回ると推測される。近年、道東太平洋周辺海域における漁獲量は11月には大きく減少することから、主漁期は10月で終了すると推測される。魚体の大きさは、一斉調査結果から前年並みと考えられる。

・根室海峡～オホーツク海域での漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられている。道東太平洋いか釣り調査における釧路以東での CPUE、7月の国後島南の海面水温（気象庁資料）および8月までに道東主要港へ水揚げした小型いか釣り船の平均 CPUE を用いた漁獲量予測結果から、根室海峡～オホーツク海域への来遊量は前年を下回ると推測される（北海道立総合研究機構釧路水産試験場内部資料）。オホーツク海沿岸の表面水温は前年並みで推移しているため、本年も10月～11月が主漁期になると予測される。魚体の大きさは道東太平洋周辺海域での調査結果から前年並みと考えられる。

・常磐～三陸周辺海域での漁獲対象資源は、三陸～津軽海峡周辺海域に分布する群を主体に道東太平洋周辺海域から南下する群が加わると考えられている。8月～9月の調査船の CPUE は三陸周辺海域においては前年を下回り、津軽海峡周辺海域では前年を上回った（前述）。8月の岩手県以南の小型いか釣り船 CPUE は前年を下回った（表1）。道東太平洋周辺海域の来遊量は前年を下回ると推測される（前述）。以上のことから、常磐～三陸周辺海域の来遊量は前年を下回ると推測される。近年、岩手県以南の12月の漁獲量は11月を上回ることが少なくないため、予報期間を通じて漁場となると推測される。魚体の大きさは、漁獲物の測定結果から前年並みと推測される。

・津軽海峡～道南太平洋周辺海域での漁獲対象資源は、道東太平洋周辺海域からの南下群と津軽海峡～道南太平洋周辺海域に分布する群が主体と考えられ、津軽暖流の勢力減少にともなう水温低下とともに津軽海峡東口

周辺海域から日本海に移動すると考えられる。道東太平洋周辺海域への来遊量は前年を下回ると推測される(前述)。津軽海峡～道南太平洋周辺海域における一斉調査 CPUE は前年を上回り(前述)、8月の小型いか釣り船 CPUE(函館、浦河港)も前年を上回った(表1)。津軽暖流の東方への張り出しは9月上旬において平年より東に位置しており(気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/>)、10月以降も同様と仮定すると、スルメイカが津軽海峡東口周辺海域において滞留する期間は前年より長くなると考えられる。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋周辺海域の来遊量は前年並みか上回ると推測される。魚体の大きさは、一斉調査及び漁獲物の測定結果から、前年並みになると推測される。

表1. 漁況経過(2012年6月～8月、一部未集計)

	漁況経過
北海道 道東	7月～8月の道東主要港における釣り漁業による水揚げ量は、2,752トン(前年比36%)であった。7月～8月のCPUEは前年比86%であった。
北海道 道南	8月の函館港における釣り漁業による水揚げ量は353トン(前年比194%)、CPUEは前年比175%であった。釣りで漁獲されたスルメイカの外套背長モードは7月に20cm(前年:19cm)、8月に19cm(前年:20cm)、9月に21cm(前年:22cm)で前年並みであった。南茅部における定置網による8月の水揚げ量は62トン(前年比29%)であった。8月の浦河港における釣り漁業による水揚げ量は1,963トン(前年比226%)で、CPUEは前年比124%であった。
青森	8月の大畑港における釣り漁業による水揚げ量は294トン(前年比83%)であり、CPUEは前年比93%であった。8月の八戸港、白糠港への釣り漁業による水揚げ量は、それぞれ876トン(前年比80%)、315トン(前年比123%)であった。CPUEは八戸港では前年比85%、白糠港では100%であった。八戸港へのまき網漁業による水揚げ量(6,940トン)は、前年(5,928トン)並みであった。八戸港で釣り漁業により漁獲されたスルメイカの外套背長モードは7月に20cm(前年:18cm)8月に19cm(前年:20cm)で前年並みであった。
岩手	8月の主要港における釣り漁業による水揚げ量は210トン(前年比11%)、定置網漁業による水揚げ量は22トン(前年比22%)であった。
宮城	8月の主要港における定置網漁業による水揚げ量は1トン(前年比14%)、釣り漁業による水揚げ量は58トン(前年比48%)で、CPUEは前年比64%であった。
福島	原発事故の影響により、漁獲は行われていない。
茨城	6月の主要港における沖合底びき網漁業による水揚げ量は1.0トン(前年比15%)、小型底びき網漁業による水揚げ量は1.7トン(前年比43%)であった。CPUEはそれぞれ前年比31%、78%であった。なお、7月～8月は底びき網漁業の禁漁期間である。
千葉	7月の主要港における定置網漁業による水揚げ量(1トン)は、前年(1トン)並みであった。釣り漁業による水揚げ量(31トン)は、前年(24トン)を上回り、CPUEは前年比33%であった。
神奈川	8月の主要2港における定置網漁業による水揚げ量は2キロ(前年比154%)、釣り漁業による水揚げ量は0.3トン(前年比41%)であった。

表1の続き

静岡	8月の主要港における釣り漁業による水揚げ量（4トン）は、前年（7トン）を下回ったが、CPUEは前年比231%であった。
三重	7月の主要港における釣り漁獲量は9トン（前年比45%）で、CPUEは前年比82%であった。8月の主要港における中型まき網漁業による水揚げ量は3トンで前年（1トン）を上回った。
和歌山	8月の主要港における釣り漁業による水揚げ量（18トン）は前年（28トン）を上回った。
高知	8月の主要3港における釣り漁業による水揚げ量（5トン）は前年（19トン）を下回った。

注：CPUEは1日1隻当たり漁獲量

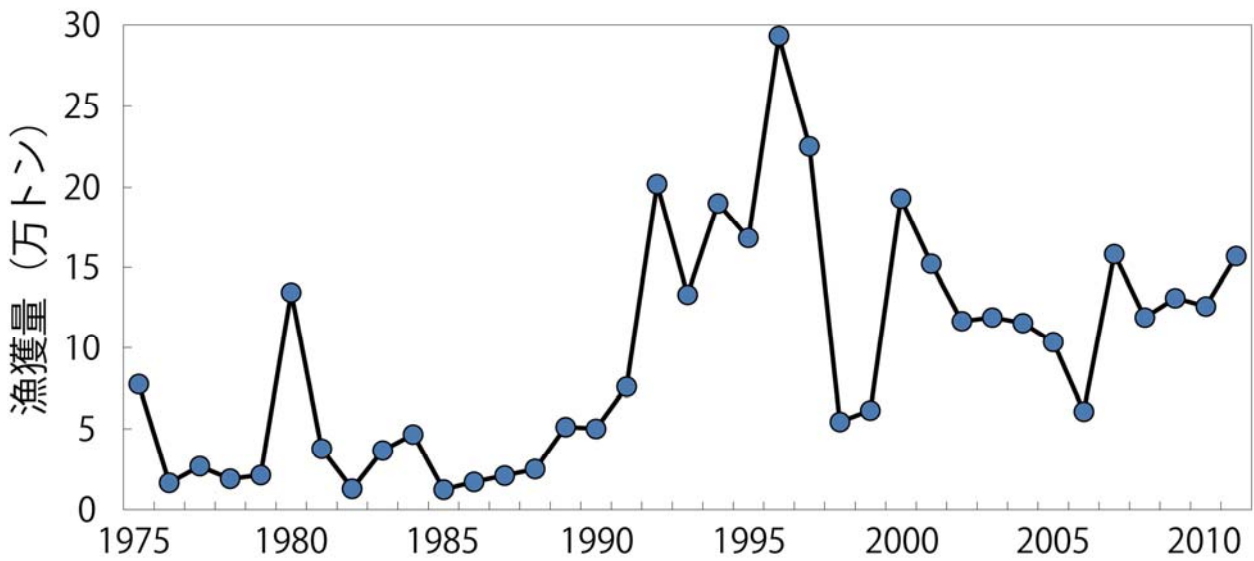


図1. 太平洋におけるスルメイカの年別漁獲量の推移  
(集計値は暦年)

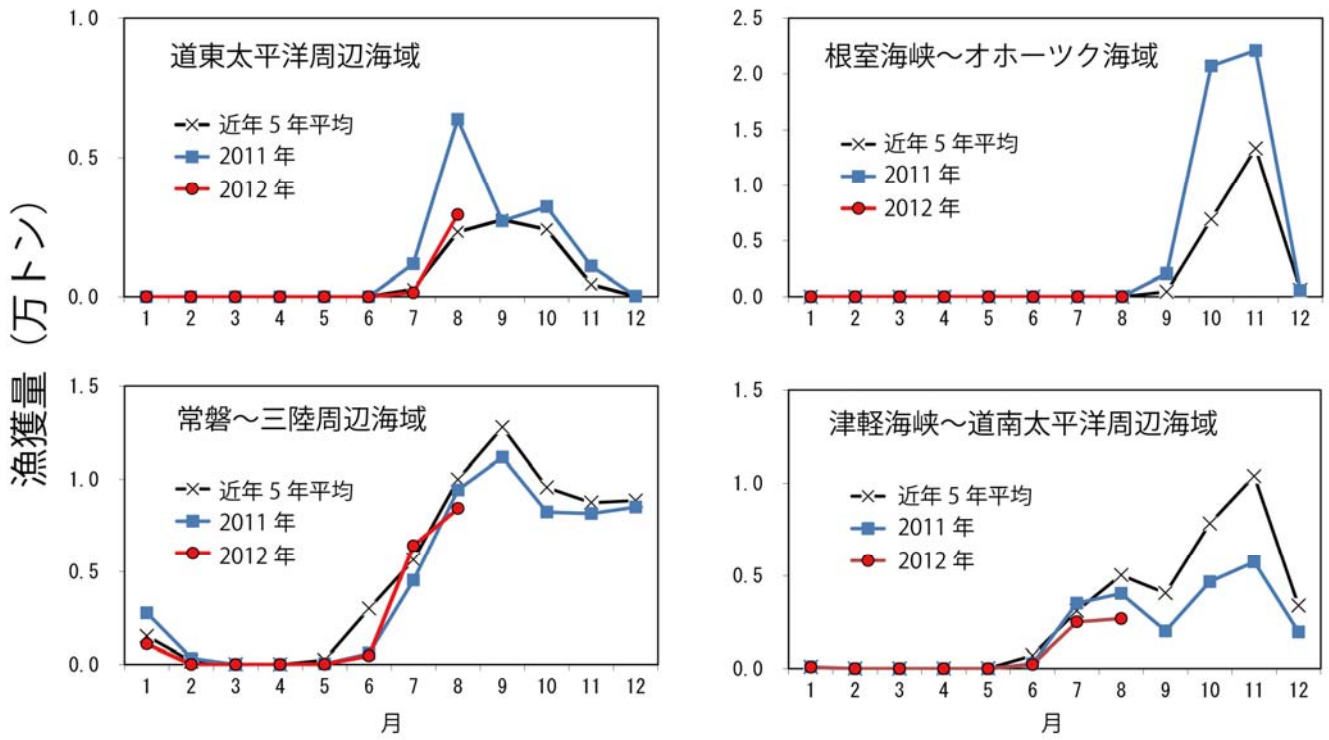


図2. スルメイカ月別海域別漁獲量（生鮮、釣り・底びき網・定置網・まき網）、近年5年は2007年～2011年

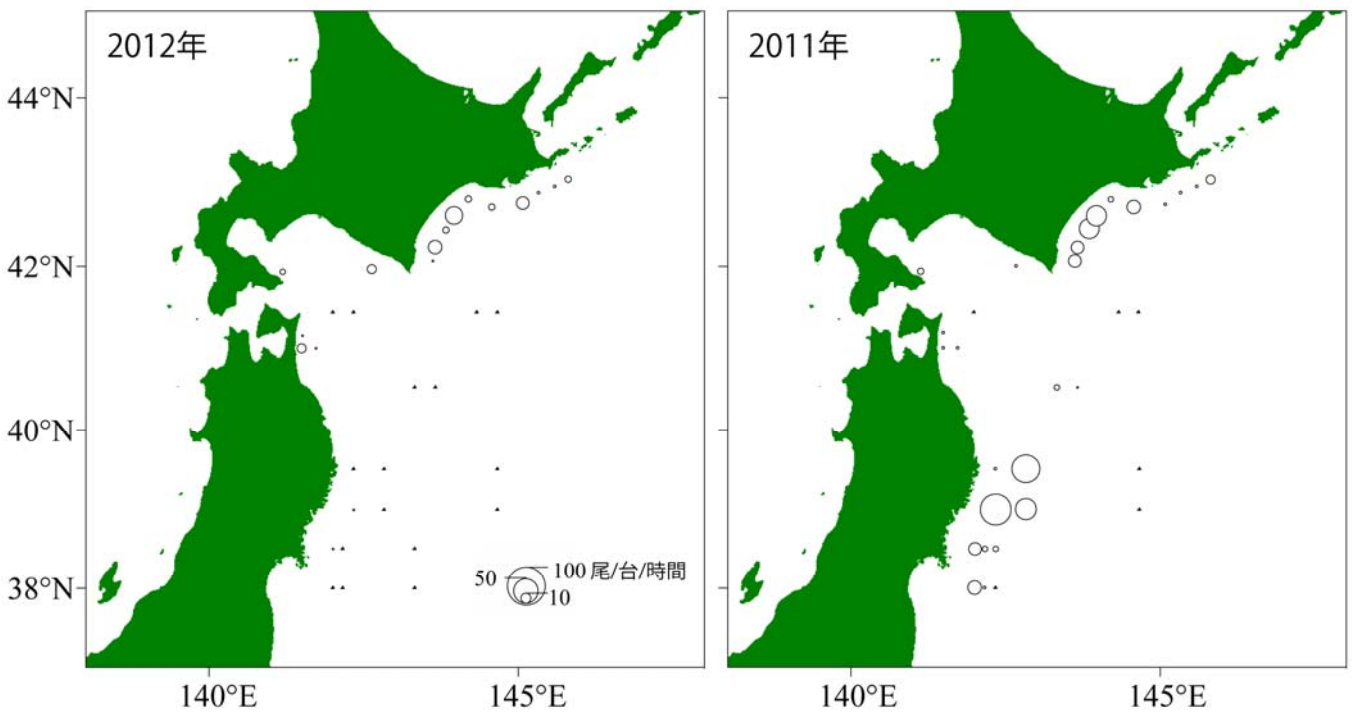


図3. 2011年と2012年の第2次漁場一斉調査および関連調査（8月～9月）におけるいか釣り調査点とCPUE（釣機1台1時間当たり漁獲尾数）、▲は漁獲なしの調査点

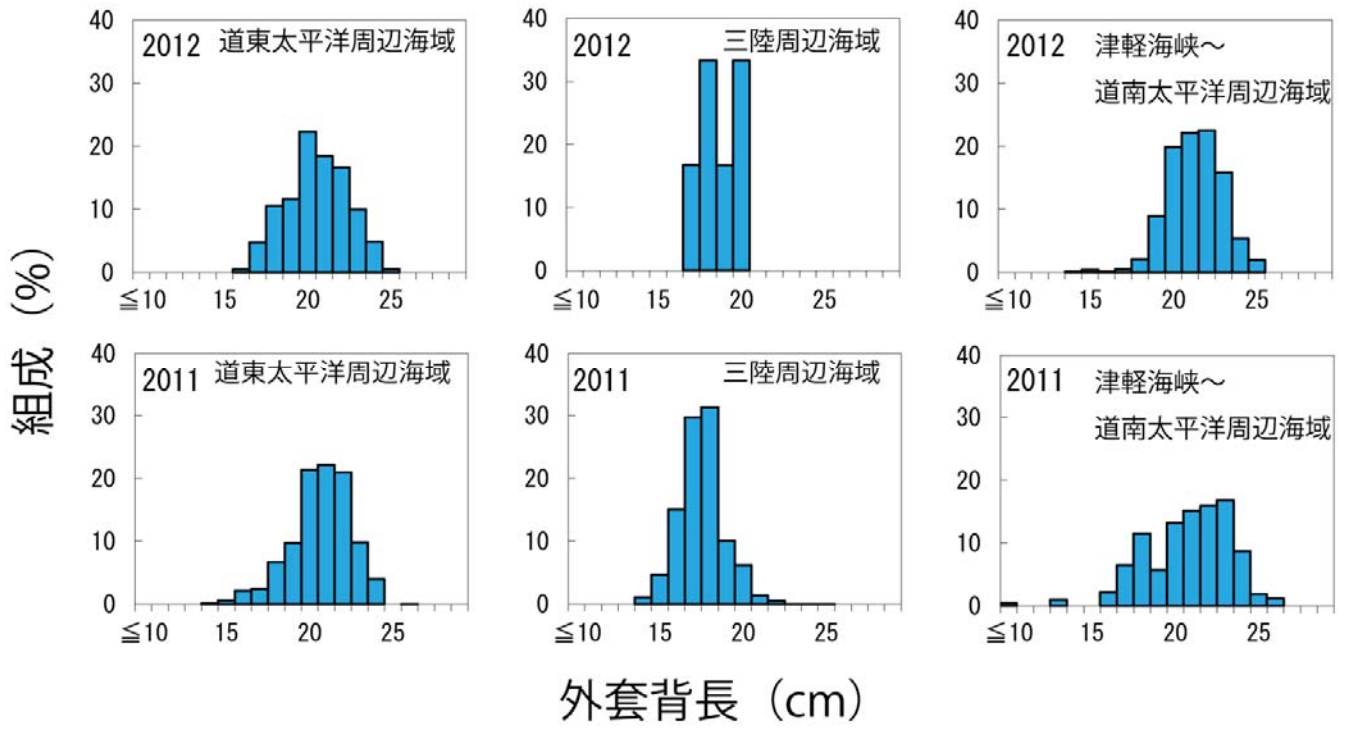


図4. 2011年と2012年の第2次漁場一斉調査による外套背長組成



## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
福島県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
茨城県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	日本海区水産研究所
神奈川県水産技術センター	中央水産研究所
静岡県水産技術研究所	(取りまとめ機関) 独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所